

道徳科学習指導案

主題名「広い心をもって」 内容項目：B [相互理解、寛容]

令和4年12月2日（金）第5校時 4年教室

<授業改善の視点>

中心発問の場面において、タブレット PC を活用して児童個々の考えを明確にし、切り返しの発問を行い、意見交流を通して児童それぞれの考えを深められるようにすることは、異なる考えや意見を大切にすることを育てるために有効だろうか。

I 授業構想

1 価値観および児童の実態

価値観	児童の実態（名）
この主題の内容項目「相互理解・寛容」は、第3学年及び第4年生において、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること」をねらいとしている。中学年の時期になると、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの空間を作り、楽しもうとする傾向がある。集団での活動などが盛んになる。しかし、自分の意見を主張し過ぎるために衝突も見られる。このような特性から、この時期においては、良好な対人関係を築けるように育成していくことが大切であり、他者のことを互いによく理解し、広い心で受け止めていくことを中心に指導する必要がある。	(削除)

2 教材観 「学級新聞作り」（出典：光文書院）

本教材は、児童の日常に起こりうるような場面を扱ったものである。月に1回発行する学級新聞を作成する主人公とその友達。その学級新聞の作成をめぐり、互いの意見が衝突してしまう。その衝突を経て主人公は、友達の考えを理解しようとし、自分の一方的な非難を反省する。その謙虚さを示した、主人公の行為を押さえることでねらいに迫ることができる教材である。どうしたら他者と良好な人間関係を築いていけるのか、自分の価値観（相互理解、寛容）を見直し、自分の考えをもつことに適した教材である。

3 人権教育とのかかわり

本授業を通じて、人権教育の重要課題における「子どもたち」に関係する学習として取り組んでいく。自分の立場と異なる相手でも、お互いに理解し合おうとすることが、多様さを相互に認め合うこととなり豊かな社会をつくることにつながる。自分の意見を相手に伝えながら、相手の考えを聞き、自分に謙虚になり相手に寛容になる心が必要である。これは、子供たちにとっても、大切な心である。自己の考えを貫き通し、自己と異なる考えを受け入れられないようなことが、いじめにつながる恐れもある。子供の人権を尊重する社会を実現させるためにも、自分の意見を大切にしつつ、相手のことを理解し、異なる意見も大切にしようとする態度を身に付けさせたい。

【育てたい能力・態度】

○知性：考えが異なっている、相手の考えには自分の考えにはない良さがあることが分かる。

○実践力：相手に広い心で接し、相手の立場に立って考えることで、自分と異なる意見も大切にしていこうとする。

4 指導方針

学習内容	指導方針・ICT活用
<導入>	・事前にロイロノートのアンケート機能を活用し、学級の課題を把握した上で本時の展開へと入っていく。
<展開>	・「相手の意見を受け入れようとする心」に気付けるように、登場人物がそれぞれ取った行為に目を向けられるような授業を展開する。 ・選択式の発問を投げかけることで、自分の考えをもちやすいようにする。 ・タブレット PC を活用し、児童個々の考えを明確にする環境を作り、多面的・多角的に意見に触れ、考えを広げたり、深めたりする。 ・全員が意見を発表する場面を作り、自分の考えをしっかりともち発信できるようにする。 ・資料から離れ、価値を一般化するために、めあてについて振り返る場面を設定する。
<終末>	・振り返りとして、本時で学んだこと、今後の自分についてノートに記述する。 ・児童が取り組みやすいように毎時間同じ振り返りの視点で書く。

II 本時の学習

1 ねらい

自分自身の言動を振り返る「わたし」の気持ちについて考えることを通して、考えの違いを尊重することの価値に気付かせることで、相互理解に努め、他者に対して寛容の心をもって接しようとする心を育てる。

2 人権教育の視点

○知性：考えが異なっている、相手の考えには自分の考えにはない良さがあることが分かる。

○実践力：相手に広い心で接し、相手の立場に立って考えることで、自分と異なる意見も大切にしていこうとする。

	学習活動 (◎中心発問、○発問、予想される反応)	指導上の留意点・ICT活用
導入 (5分)	<p>1. 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。</p> <p>○友達と自分の意見や考えが違ったときはありますか。 S：休み時間の遊びたい内容で違いがありました。 S：係の仕事の仕方では考えが違いました。 ○意見や考えが違ったとき、どんな気持ちになりましたか。 S：もやもやした気持ちになりました。 T：事前にとったアンケート結果を見てみましょう。 T：言い争いになってしまう人もいますよね。</p> <p>【めあて】人と意見が違ってしまった時、どうしたら良いのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 開始同時に発問を投げかけ、授業のテンポを良くしていく。 自由に発言する場を作り、児童の意欲を高める。 <p>・ロイロノートのアンケート機能を事前に実施しておき、その結果を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果から、課題を明らかにし、その改善策を考えていくことをめあてとし、教材を読む観点を与えることで主体的に児童が学べるようにする。
展開 (30分)	<p>2. 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>○登場人物は誰ですか。 S：「わたし」と黒羽さんと清水さんです。 ○「わたし」と黒羽さんはどのようなことで言い争っていましたか。 S：苦労したことを書いてもらうか、インタビューかで採めました。 3. 教材を通して道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <p>○「わたし」と黒羽さんどちらが、新聞を読む人のことを考えていますか。 S：「わたし」です。最後の文にみんなにも読んでもらいたいと書いてあるからです。 S：黒羽さんです。新聞を読む人のことを考えてインタビューしようと言っているからです。 S：どちらもだと思います。 ○お互い考えているのに、なぜ言い争いになってしまったのですか。 S：自分の考えしか言わなかったからです。 S：相手の意見を聞こうとしなかったからです。 ◎心が晴れないと書いてありますが、このとき「わたし」はどのような気持ちでしたでしょうか。 S：あんなこと言わなければよかったな S：黒羽さんの考えも聞いてあげればよかったな。 ○この後、みんなで学級新聞を作るときに大切なことはどのようなことですか。 S：友達の意見も聞く心が必要だと思います。 S：自分の意見を言いすぎないように気をつける。 4. めあてについて振り返る。</p> <p>○人と意見が違ってしまった時、どうしたら良いのでしょうか。 S：自分の意見ばかり言うのではなく、相手の意見も聞いてみる。 S：相手の意見にもいいところがあるかもしれないので、しっかりと聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師の範読を聞かせる。途中分りにくい語句などは簡単に確認しながら進めていく。 登場人物を確定し、ナンバリングをすることで子供の思考を整理する。 物語の概要を簡単に確認することで資料理解を促す。 <ul style="list-style-type: none"> 選択式の発問にし、児童の考えの立場を明確にすることで、授業への参加度を上げる。 <ul style="list-style-type: none"> 挙手をし、自分の考えをはっきりする。数名、児童を指名し、理由などを問う。 それぞれの理由を聞き、登場人物二人とも読み手のことを考えているということを押さえる。 お互い読み手のことを思う気持ちは同じなのに、なぜ衝突が起ってしまうのか、原因を考えることで中心発問における児童の考えを深められるようにする。 <p>・ロイロノートの中にある、テキストカードを送り、そこに意見を記述し提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の意見も提出しておき、必要に応じて閲覧しても良いと伝え、書けない児童の参考とする。 <ul style="list-style-type: none"> 全員発表の場面を作り、自分の考えをもち、それを発信したり、多様な意見に触れたりする場面を作る。 中心発問から出た意見を共有した後、切り返しの発問を投げかけ、価値に迫る場面を作る。 再度めあてに戻り、価値の深まりを認識する。 児童を数名指名し、意見を共有する。
終末 (10分)	<p>5. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <p>○今日の授業でわかったこと、大事だと思ったこと、今後自分はどうしていきたいか書きましよう。 S：言い争いにならないためには、自分の考えを言うだけでなく、相手の考えも受け入れることが大事だと思いました。 S：自分の意見を言うときは、友達のことも考えてあげるべきだと思いました。 S：今後は「わたし」みたいに友達のことも考えていこうと思いました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの視点を与えてから書かせる。毎時間同じ視点で書かせることで取り組みやすいようにする。書けた児童から発表をさせ、児童の考えを共有させたり、書きにくい児童の参考にさせたりする。 <p>【評価の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手に広い心で接し、相手の立場に立って考えることで、自分と異なる意見も大切にしようとしているか。(ノート記述)

<板書計画>



